

「長野県蘇南高等学校 3つの方針」

本校では、「学校目標」及び「中長期的目標」を具現化し教育活動を充実させるために、下記の『3つの方針』を策定しました。

1. 生徒育成方針

本校創立時より受け継がれている「開拓者精神の具現化」という学校目標の下、総合学科高校の理念である「個性を生かした主体的な学習」、「自己の進路への自覚を深めさせるキャリア教育」を教育活動の両輪とし、社会のさまざまな分野で活躍できる人材の育成を目指します。また、地域の諸機関、人々との連携・協働から、地域社会に貢献できる人材を養成します。そのために、生徒が卒業時に身につけているべき能力や知識等を下記のように定めます。

- ① 自己の在り方や生き方について認識し、豊かな社会を築くために積極的に寄与する意欲や態度。
- ② 地域や社会の諸問題に目を向け、自ら問いを立て検証する力。
- ③ 地域の諸機関及び地域人材との連携・協働ができるコミュニケーション力。
- ④ 基本的な生活習慣の確立とその上に立って意欲的に学ぶ姿勢。
- ⑤ 社会に貢献できる知識・技術、それらをベースにした思考力・判断力・表現力。
- ⑥ 他者を尊重し他者を認めることにより、よりよい社会を構築するための協働的な意欲・態度。

2. 教育課程編成・実施方針

生徒育成方針に沿い、かつ地域社会や産業界の要望に応えるため、教育課程の編成及び実施方針を以下のように定めます。

- ① 1年次及び2年次に「産業社会と人間」を必修科目として置き、生徒自らが自己理解（在り方や生き方）を深められるようにする。
- ② 本校が創立以来培ってきた普通科・商業科・電気科の成果及び教育資産を最大限に活用するため、「文理系列」・「経営ビジネス系列」・「ものづくり系列」の3系列を設置する。1年次の「産業社会と人間」科目で自己理解及び系列の内容理解を深めた後、2年次以降、生徒自身の興味・関心及び進路希望に応じて系列を選択していく。
- ③ 3年次に必修科目である「総合的な探究の時間」を置き、自ら問いを立てそれを検証する力を身に付けさせる。その成果は、総合研究発表会において発表するが、地域住民も招聘し開かれた学校づくりの一助とする。
- ④ 地域人材の活用、妻籠宿や旧中山道をはじめとする歴史遺産を活用した「蘇南版信州学」、教科横断型授業、対話的・体験的で生徒が主体的に動く授業等を積極的に取り入れることで、地域に貢献し年代を超えた人々と協働できる力を身に付けさせる。
- ⑤ 生徒、保護者及び学校評議員の評価と教職員自らの振り返りをP-D-C-Aサイクル※に乗せ、「常に改善」を意識しながら教育課程の見直しを柔軟に行う。
※P-D-C-Aサイクル：Plan（計画）-Do（実行）-Check（評価）-Action（改善）を繰り返すことにより教育活動を継続的に改善していく手法のこと。
- ⑥ 次の3観点を評価の柱とする。なお、詳細は各教科シラバスによる。
『知識・技能』 『思考力・判断力・表現力等』 『学びに向かう力・人間性等』

3. 生徒募集方針

地域を愛する心を持ち、社会で活躍できる人材を育成するために、下記を理解している生徒の入学を期待します。

- ① 基本的な生活習慣及び基礎的な学力を持ち、充実した高校生活を送る意欲のある生徒。
- ② 総合学科の理念を理解し、「自ら学ぶ」「深く学ぶ」「キャリアを切り拓く」強い意志のある生徒。
- ③ 人権を尊重し平和な社会を構築する意欲のある生徒。
- ④ 社会のグローバル化やさまざまな国々の文化の違いを理解し、それらのかけ橋となろうとする意欲のある生徒。